


園だより 1 月


「起きよ、光を放て。あなたを照らす光は昇り 主の栄光はあなたの上に輝く。」
イザヤ書 60 章 1 節

「えがおあふれる いちねんになりますように」



年末には収束に向かうかと思われたコロナウイルスが形を変え、また猛威を振るってきそうな気配です。どの様な状況になろうとも現状を見据えつつ、やはり切に願うことは、子どもたちの生活が不条理にコロナに振り回されること無く、出来得る限り安全な環境の中で、それぞれの溢れる思いを大切に、自らの力を発揮する三学期の日々でありたいということです。本当に短い三学期です。大切に過ごして参ります。

昨年頃から、コロナ禍による拍車もかかり、様々な処で「ICT化」「見える化」という言葉を頻繁に耳にするようになりました。それだけでなく、保育現場でもそれに対応した研修なども開催されるようになりました。苦手意識を持っている私も、意識改革をしながら、先生たちと一緒に少しずつ学びを始めています。とても便利であったり、仕事の効率化が図られたり、容易に情報の共有化が出来たりと、魅力的で目を見張ることは沢山あります。保育の現場にも取り入れたらきっと有意義な面も有るであろうと思われることも。時代に沿った対応が求められていることもとてもよく理解できます。けれども、状況に応じて取り入れながら保育を考えていくことは大切と思いつつも、どうしても時代に沿った方向転換を、ともろ手を挙げて思えない自分を認めないわけにいかない今の心持ちでもあるのです。目に見えることは分かり易く、理解し易いことに繋がります。情報が豊富であることは選択肢が広がることに繋がります。けれども、その易さに頼りすぎると、何か大切なことに気付かず、本当に大切なことを受け止めずにいるのではと感じずにはいられないのです。安易に情報を受け取れるようになったことにより、人間に与えられた賜物である豊かな感性の働きが衰えて行っている気がしてならないのです。文章の行間から表現されていることの深みを感じ取る、相手の様々な表情から相手の思いを感じ取るなど、まだまだ現代の技術では表現しきれていないものを人間の持つ感性によって感じ取ることの重要性、これからの時代だからこそ更なる必要性を改めて感じています。そして、これからどんどん発展していくであろう IT 技術の中で成長する子どもたち、幼児期であるからこそ育てる「感性の育み」に想いを深く持ち、子どもたちと共に日々を大切に過ごしていきたいと、改めて思った年の始めでした。今年も宜しくお願い致します。



園長 駿河 幸子

